

# 区議会レポート

# 108号

葛飾区議会議員  
**かわごえ誠一**

2024年12月16日発行

発行：かつしか区民連合

■ 区議会控室 ■

東京都葛飾区立石 5-13-1

f a x 03-3697-0137

■ かわごえ誠一連絡先 ■

東京都葛飾区立石 8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

info@kawagoeseiichi.com

## 本号の内容

表面：令和6年第四回定例会報告

裏面：タウンミーティング報告他

## 令和6年区議会第四回定例会報告

◆令和6年区議会第四回定例会が11月27日(水)から、12月13日(金)までの17日間の会期で開催されました。

### ■第四次一般会計補正予算 26億7,200万円議決

◆今定例会では物価高騰緊急対策支援金支給事業経費の他、利用が増えている産後ケア事業の拡充、乳房エックス線撮影装置購入助成経費など令和6年度一般会計第四次補正予算26億7,200万円が上程され、12月13日の本会議で議決されました。◆今定例会ではかわごえ誠一が一般質問などで取り組んできた公文書等管理条例や、文化芸術に関するアート・カルチャー基本方針、子ども・若者総合計画などの素案が報告されました。◆下記の通りパブリックコメントの募集が始まっていますのでご意見をお寄せ下さい。

◆保健福祉委員会においてインバウンドの増加に伴い増えている民泊の苦情対策のため、事業者への講習会やガイドラインの拡充など対策の強化について報告がされました。

◆危機管理対策特別委員会ではペットの防災ハンドブック案が報告され、災害への備えや避難所での対応等が示されました。

### ■第五次一般会計補正予算 30億4,260万円議決

◆また、今定例会最終日に住民税均等割非課税世帯重点支援給付金事業にかかる第五次補正予算30億4,260万円が上程され、即日に議決されました。◆今後、低所得者へ1世帯あたり3万円及び、対象者で子どもがいる世帯には児童一人当たり2万円が給付されます。

### ■中川かわまちづくり始動

◆中川の高砂橋から上流部の中川かわまちづくりの実験事業が11月24日(日)を皮切りに開催されました。◆高砂橋左岸ではキッチンカーやパフォーマンスの上演、水辺にふれ合える仮設デッキの設置などが行われ賑わいを見せていました。



仮設の水上デッキから

## パブリックコメント実施中

パブリックコメント詳細はこちらのQRコードからご覧下さい →



◆第四回定例会では条例や行政計画の素案が報告され、パブリックコメント実施されています。ご意見をお寄せ下さい。

### ■葛飾区子ども・若者総合計画(素案)

募集期間→令和6年12月6日(金)から令和7年1月6日(月)

◆「子ども・子育て支援事業計画」及び「子ども・若者計画」の理念や目標を踏まえ、両計画を一体化した次期計画。

### ■(仮称)葛飾区社会的養育推進計画(素案)

募集期間→令和6年12月6日(金)から令和7年1月6日(月)

◆社会的養育を推進し、子どもの最善の利益を実現するための計画。

### ■第3次かつしか健康実現プラン(素案)

募集期間→令和6年12月6日(金)から令和7年1月6日(月)

◆健康増進法で定める「市町村健康増進計画」として、区民の健康づくりに取り組むための次期計画。

### ■葛飾区建築物再生可能エネルギー利用促進計画(素案)

募集期間→令和6年12月9日(月)から令和7年1月7日(火)

◆建築物の再生可能エネルギー利用設備の設置促進につなげ、ゼロエミッションの実現に資するための計画。

### ■(仮称)葛飾区公文書等管理条例(素案)

募集期間→令和6年12月12日(木)から令和7年1月13日(月)

◆公文書等の管理に関する法律の趣旨に則り、区の公文書を位置づけ適正に管理するための条例。

### ■(仮称)かつしかアート・カルチャー基本方針(素案)

募集期間→令和6年12月13日(金)から令和7年1月14日(火)

◆葛飾らしい文化・芸術振興及び文化を通じたまちづくりの基本的な考え方を示す基本方針。



# ミニタウンミーティング・学習会 報告

## 多文化共生社会に向けて 外国ルーツの子ども・家庭を支える取り組み ～子育て・教育の現場で何に困り、何が求められているのか～



タウンミーティングのワンシーン

### ◆11月14日(木)

にかつしかシンフォニーヒルズにおいて、ミニタウンミーティング「多文化共生社会に向けて～外国ルーツの子ども・家庭を

支える取り組み～子育て・教育の現場で何に困り、何が求められているのか」を開催しました。◆冒頭、かわごえが取り組んできた日本語教育の環境整備について報告しました。◆当初、ボランティア任せになっていた日本語学級を正規の指導ができる体制への整備を求めるとともに、日本語初期指導の場の設置を働きかけ、現在の日本語ステップアップ教室つながった経緯を振り返りました。◆続いて外国ルーツ子どもたちへの活動から報告をいただきました。

### ■外国ルーツの保護者の置かれている状況とRMJの活動

#### ～「RMJ」代表 室井萌さんより

◆RMJは人種国籍に関係なく全てのパパママへの支援をし、全ての方がリラックスできる場をつくることを目的としている。◆きっかけは外国人ママと知り合ったことで、支援団体を探したが無かったため自ら立ち上げた。◆PTA活動などで外国ルーツの家庭が増えていることを感じているが、学校からの情報が親に届かず孤立している状況に置かれている。◆そのようなケースで子どもがヤングケアラーのような状況にもなり、しわよせが子どもに行ってしまう。◆外国人パパママから困っているという声を聞くが、社会が孤立している家族に手を差し伸べられていない状況がある。◆育児が大変なのは人種国籍には関係なく、孤立しないことが重要。◆RMJとして「わがまち学習会」や、オンラインコミュニティでの情報交換、通訳・翻訳、同行サポートを行っているが、更に輪を広げていきたい。

### ■外国ルーツの子どもの学習支援ボランティア活動

#### ～「なかよし」浦山太市さんより

◆ボランティアで外国人の子どもへの学習支援をしてきたが、外国人の子どもが増えてきている。◆現在、外国の子どもたちへの支援ネットワークが無い。◆課題を交通整理できる人が必要だ。◆ステップアップ教室ができたが、そこに行ける子どもはいいがそのような子どもばかりではない。◆また、環境によりやる気がある子、やらない子の差が大きくなる。◆小学校低学年で課題のある子について「日本語の指導が必要なのか、特別支援が必要なのか」の判断が難しい状況がある。◆高校受験では在京枠を設ける学校の増加や、入学後の外国語支援が進んで来た。◆区内の日本語指導が必要な子どもの数を把握して支援すべきだ。

### ■療育から見る外国ルーツの子ども支援の課題

#### ～放課後等デイサービス「ソラアル」河高康子さんより

◆現在、ソラアルには多様な国の子どもも来ているが、発達特性のある外国ルーツの子どもが増えている。◆その親がコミュニティから孤立していると感じる。◆親が子どもの障害を受入れられるかは、その国の文化が「医療モデル」か「社会モデル」かの意識の差や、虐待への認識の差、ジェンダーなどそれぞれの国の背景が大きい。◆一方出身国の宗教的背景について支援者側に知識の無いことが親への批判につながることもあったが、文化的な背景を知り、共有する場が必要だ。◆また、療育に関する通訳の問題があり、子どもが自分の障害のことを親に通訳しなければならない場面も生じている。◆ただ、様々な国々に比べると日本の特別支援教育は素晴らしいと感じる。◆今後も自信を持って取り組んでいきたい。

### ■総合教育センターでの日本語教育支援 ～総合教育センター

◆総合教育センターは特別支援教育、不登校対策、日本語指導の大きく3つの事業を所管する。◆外国人の児童生徒は増加しており、4校の日本語学級や日本語通訳の派遣などを行っている。◆日本語の初期指導として総合教育センターに「にほんごステップアップ教室」を設置し、10月に新小岩地域に増設し、学校文化の基本を学ぶ取り組みなどを行っている。

### ■子ども家庭支援センターでの外国ルーツの家庭への支援

#### ～子ども家庭支援センター

◆子ども家庭支援課は、児童相談所、総合教育センターと連携して相談支援をしている。◆現在葛飾区では約5%が外国人だが、相談の約7%が外国人の子どもの相談だ。◆外国人世帯からの虐待や障害児の相談、出産の支援等を行っている。◆虐待の認識や障害の受容などその国の文化の違いによる困難さなどがあるが、寄り添いながら支援をしていきたい。

### ■葛飾区の多文化共生の取り組みについて ～文化国際課

◆シンフォニーヒルズの運営をしている所管課になる。◆葛飾区はこの4月に47万人を超えたが、人口増の内訳は日本人56人に対し外国人2302人である。◆中国、韓国、ベトナム、フィリピンの順で多く、特に新小岩地域で多くなっている。◆区の多言語対応は、ホームページ・WEB版広報葛飾の108言語、区の発行物での3言語対応、行政窓口で携帯型翻訳機配備などを行っている。◆また、区役所で英語・中国語による外国人生活相談を行っている。◆現在やさしい日本語の普及を行い、その他、ボランティア日本語教室の支援や日本人区民と外国人区民との交流促進などをはかり、今後地域行事等への日本語ボランティア通訳派遣を進める予定だ。

■まとめ ◆今回の報告から、各現場で外国ルーツの子どもの増加に伴い様々な対応に追われている一方、行政としては体制が十分に整備されていないことが見えてきました。◆今後、子どもたちへの支援を充実させるために、まず、現場の状況を調査し課題の共有を急ぐ必要があると感じました。

